

高校年代におけるスポーツエリートと受験勉強エリートのメンタルモデルの構築

Mental model construction of sports elite and studying for exam elite at high school age.

1K04A104

佐々木 翔一

指導教員

主査 堀野博幸先生

副査 倉石平先生

1. 研究背景

本研究は、近年のスポーツ選手のセカンドキャリア問題の高まりを受け、その原因を探ることを目的とし、高校年代におけるスポーツエリートと受験勉強エリートのメンタルモデルを構築し、さらにそれらを比較検討するものである。

2. 研究方法

研究方法として、プロ選手の輩出経験を持つスポーツの指導者と偏差値の高い大学への輩出経験を持つ受験勉強の指導者に半構造化インタビューを行い、そのデータを元にグランデットセオリーアプローチという方法を用い質的研究を行った。

3. 結果と分析

その結果、スポーツエリートからは「落ち着き: 冷静であわてないこと」「耐える力: 嫌なことにも我慢ができること」「土壇場: 自分が不利な状況でも力を発揮できること」「波がない: どのような状況・事柄にも安定して力を出せること」「コミュニケーション: 周りへの働きかけができること」「自己表現: 自分の存在を周りに認めさせられること」「自信: 自分のほうが周りより優れているという意識を持っていること」「妥協しない: 全力を尽くせること」「トップの経験: 高いレベルでの経験があること」「リーダーシップ: 周りを率いる力があること」「自己管理: 自分に必要なことを把握していること」「発展力: ある事柄を工夫したり、派生させたりできること」「理解力: 周りからの働きかけを正確に理解できること」「適応能力: 今までとは違う環境に適応

できること」「素直: 周りからの働きかけに対し、反論しないこと」「チームワーク: 周りに合わせられること」「チャレンジ: 失敗を恐れず挑戦すること」「負けん気: 諦めずに自分の考えにこだわること」の計18カテゴリーが、受験勉強エリートからは「落ち着き: 冷静であわてないこと」「切り替え: 何に対しても力を向けられること」「経験: 高いレベルでの経験があること」「自信: 自分のほうが周りより優れているという意識を持っていること」「対処: 周りからの圧力に対して適切な処理ができること」「協調性: 周りの環境に合わせられること」「自己表現: 自分の存在を周りに認めさせられること」「信頼性: 周りから信頼を得られること」「発展力: ある事柄を工夫したり、派生させたりできること」「想いの強さ: 信念を持ち、貫き通すこと」「継続: 物事を続けられること」「集中力: 意識を一箇所に集められること」「ストイック: 全ての事柄に集中し、全力で取り組めること」「全力: 持てる力すべてを注げること」「素直: 周りからの働きかけに対し、反論しないこと」「素直さと芯の強さのバランス: 素直さと芯の強さを、同時に、バランス良く持っていること」の計16のカテゴリーが抽出された。さらにそれらのカテゴリー同士の関係を概念化し、スポーツでは、「自己表現」というカテゴリーは「落ち着き」「自信」「経験」「リーダーシップ」「チームワーク」「コミュニケーション」「負けん気」というカテゴリーから成り、「妥協しない」「自己管理」は『ストイック』という新たなカテゴリーにまとめられ、『ストイック』は「波がない」のように発揮されるという関係性を持ち、「チャレンジ」「適応能力」「土壇場」「耐える力」は『対処』というカテゴリーにまとめられ、「発展力」を可能にす

るために「理解力」というカテゴリーが必要になるとした。受験勉強では、「自己表現」というカテゴリーは「落ち着き」「自信」「経験」「協調性」「信頼性」から成り、「自己表現」と「素直」を同時にバランス良く持つことが「素直さと芯の強さのバランス」であり、「ストイック」に必要なカテゴリーとして「集中力」「全力」「想いの強さ」が挙げられ、「ストイック」は「切り替え」「継続」のように発揮されるという関係性を持つとした。

4. 考察

受験勉強エリート特有のカテゴリーとして「信頼性」「切り替え」が、スポーツエリート特有のカテゴリーとして「負けん気」「リーダーシップ」が認められたが、その他大部分のカテゴリーは重複していた。このことから、スポーツ選手におけるセカンドキャリア問題の原因として、「信頼性」「切り替え」という社会的性格の欠如が考えられるが、先行研究にあるように、システム・構造上の問題が大きいと結論付けた